

平成 30 年 1 月 31 日

各 位

会社名 株式会社 新生銀行
 代表者名 代表取締役社長 工藤 英之
 (コード番号 : 8303 東証第一部)

平成 30 年 3 月期 第 3 四半期決算について

当行の、平成 30 年 3 月期第 3 四半期における親会社株主に帰属する四半期純利益は 356 億円、前年同期比 77 億円の減益となりました。単体四半期純利益は 282 億円、前年同期比 39 億円の減益となりました。

損益の状況(連結)

(単位:億円)

	平成30年3月期 第3四半期(9か月)	平29年3月期 第3四半期(9か月)	増減額
業務粗利益	1,749	1,720	28
経費	-1,071	-1,074	2
実質業務純益	677	646	31
与信関連費用	-299	-229	-69
親会社株主に帰属する四半期純利益	356	433	-77

業績

- **業務粗利益**は、前年同期比 28 億円増加し、当第 3 四半期は 1,749 億円。
 - このうち**資金利益**は 967 億円で、前年同期の 921 億円から 46 億円の増加。消費者金融業務の貸出業務の伸長が寄与したことなどによる。
 - **非資金利益**は 781 億円で、前年同期の 798 億円から 17 億円減少。法人営業業務やプリンシパルトランザクシヨンス業務における保有株式の売却益の計上、および法人営業業務における手数料収入の増加があったものの、ALM 業務における国債等債券売却益およびリテールバンキング業務における資産運用商品販売関連収益が減少したことなどによる。
- **経費**は、前年同期比 2 億円減少し、当第 3 四半期は 1,071 億円。業務基盤拡充を図るための広告費、システム費および店舗関連費用が増加する一方、税金および人件費が減少。経費率は 61.2%。
- **与信関連費用**は、前年同期比 69 億円増加し、当第 3 四半期は 299 億円(費用)。消費者金融業務全般の貸出残高増加に伴う貸倒引当金の繰入計上に加え、法人業務で個別貸倒引当金の繰入が発生したことを主因に増加。
- **親会社株主に帰属する四半期純利益**は、前年同期比 77 億円減少し、356 億円。
- **単体四半期純利益**は、非資金利益の減少を要因として業務粗利益が減少したこと、経費がグループ本社を当行内に設置したことに伴い増加したことなどから、前年同期比 39 億円減少し、282 億円。
- **総資産**は、平成 29 年 3 月末比 2,374 億円増加の 9 兆 4,958 億円。現金預け金や有価証券、貸出金などが増加したことによる。

資本および資産の質

- **バーゼル 3 国内基準(経過措置適用ベース)での連結コア自己資本比率**は、平成 29 年 3 月末の 13.06%から平成 29 年 12 月末は 12.90%。**バーゼル 3 国際統一基準(完全施行ベース)での普通株式等 Tier1 比率**は平成 29 年 3 月末の 12.3%から 12.2%となり、引き続き自己資本比率は十分な水準を確保。
- **不良債権比率**は、平成 29 年 3 月末の 0.22%から 0.18%となり、引き続き低水準を維持。

当期決算の詳細については、以下当行 URL(「IR 情報」メニューの中の「四半期決算情報」)をご覧ください。

URL: http://www.shinseibank.com/corporate/ir/quarterly_results/index.html

以上

お問い合わせ先
 新生銀行 グループ IR・広報部
 高橋、江口
 Tel.03-6880-8303